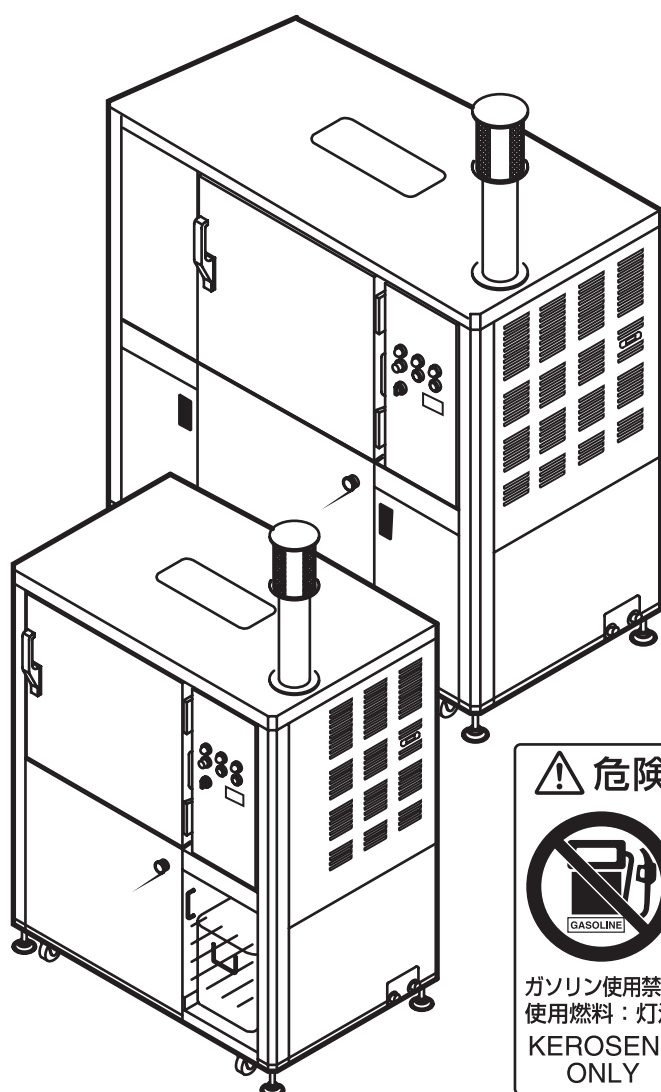
DAINICHI

石油乾燥式生ごみ処理機
DNS-K60B
DNS-K100B

取扱説明書

目　次

⚠危険

GASOLINE

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油
KEROSENE
ONLY

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、ご使用になる方がいつでも取り出せる場所に、工事説明書と共に大切に保管してください。

安全のために必ずお守りください

お使いになる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています

誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、設置工事作業者、または設置工事の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、設置工事作業者、または設置工事の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

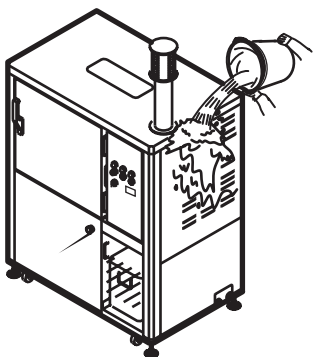
	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

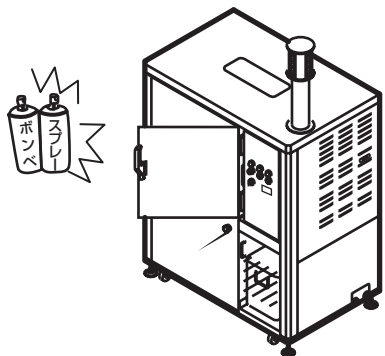
⚠警告(WARNING)

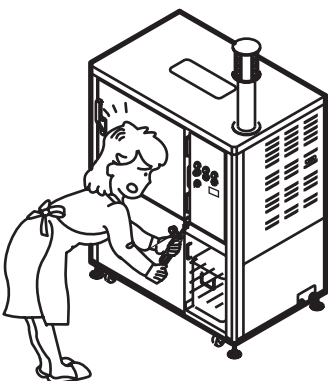
ガソリン使用禁止

燃料は必ず灯油(JIS１号灯油)を使用してください。
ガソリンなど揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

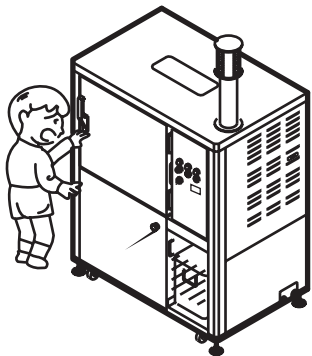
お手入れの際は、本体に水をかけない

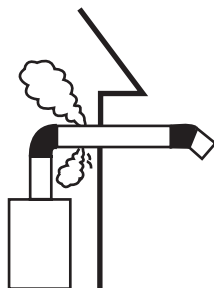
ショートや感電のおそれがあります。

スプレー缶・缶詰や石油類・花火・アルコール・酒類・アルコール分を含む食品など引火・爆発するものは入れない

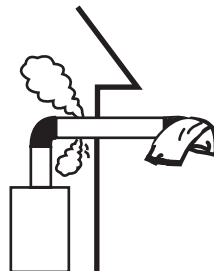
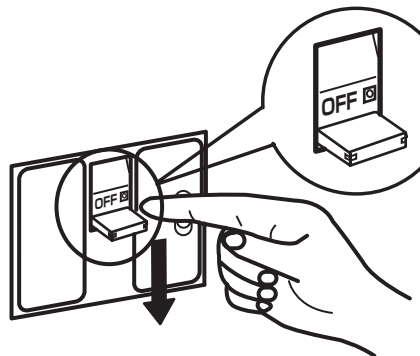
火災・けがのおそれがあります。

絶対に分解したり修理・改造はしない

発火したり、異常動作でけがをすることがあります。修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。

⚠警告(WARNING)

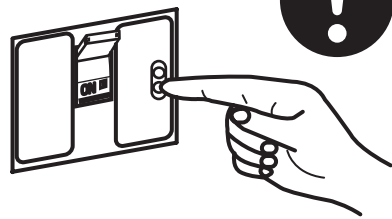
幼児・子供に使わせない

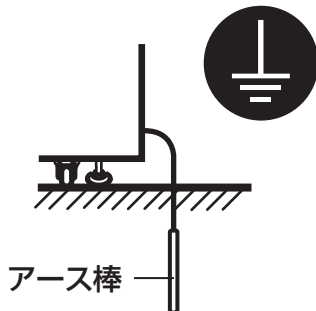
やけど・感電・けがをするおそれがあります。

外れ危険

屋内に設置しているときは、排気筒が正しく接続されているか点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れ、危険です。

排気筒の閉そく危険

屋内に設置しているときは排気筒がつまったり、ふさがれていないことを確認してください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

お手入れ・点検の際は、必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)側にする

感電・けがをするおそれがあります。

漏電ブレーカーの動作確認をする

故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

アース工事がされているか確認する

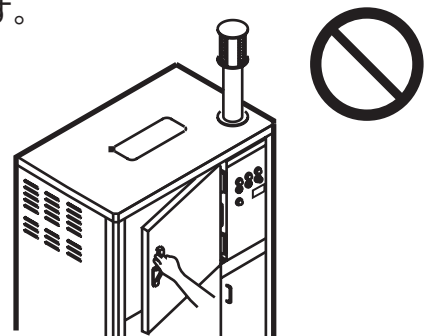
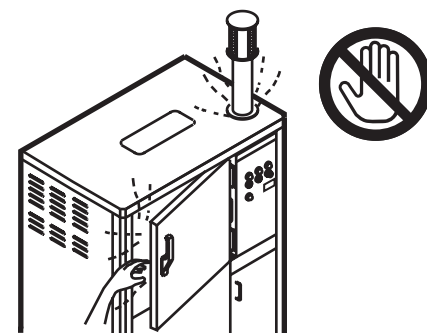
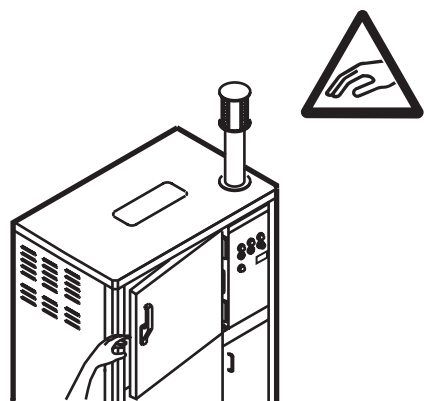
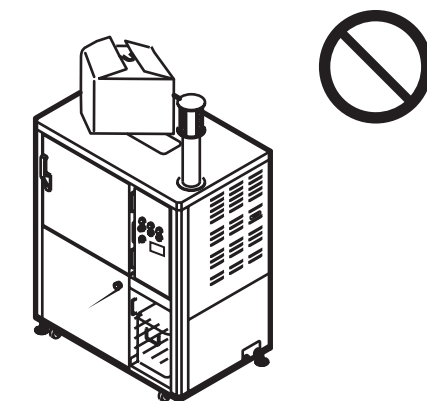
故障や漏電のときに感電するおそれがあります。
(この機器はインバータ制御機器を使用しています)

乾燥ごみ排出口から乾燥室に物や手を入れない

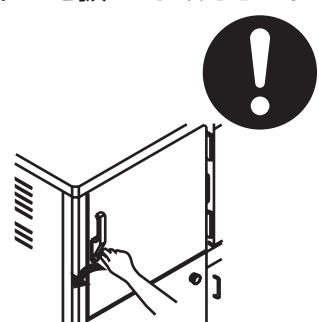
内部では撹拌羽根が回っており、やけど・けがをするおそれがあります。

安全のために必ずお守りください

⚠注意(CAUTION)

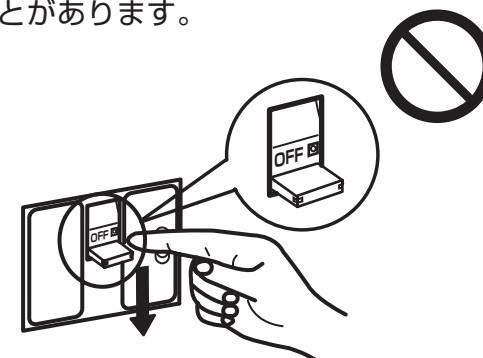
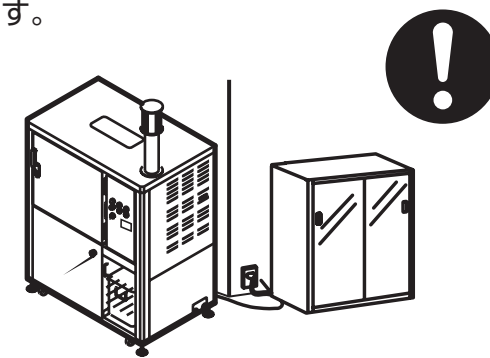
ご使用のとき

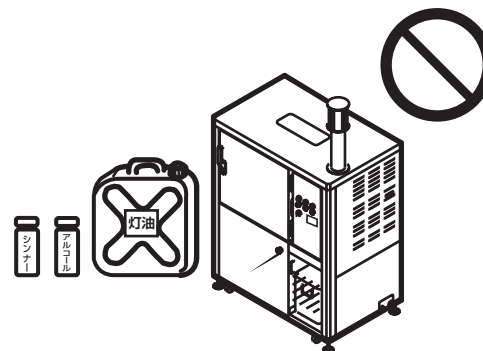
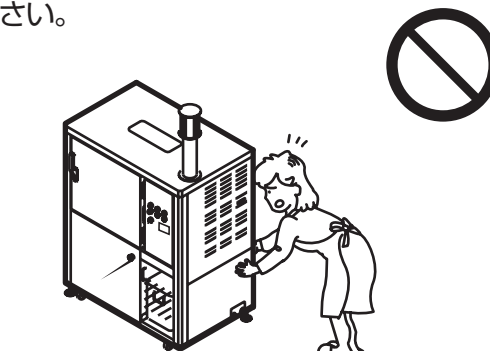
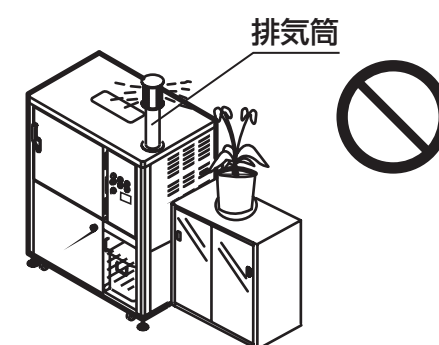
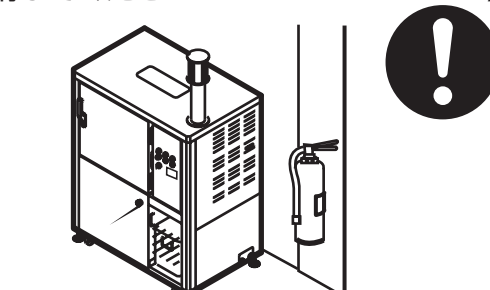
運転中は投入口扉を開けない
高温の湯気が出たり、内部が高温になっていますのでやけどするおそれがあります。また撹拌羽根の動きが止まりきっていない場合、指のはさみこみによるけがのおそれがあります。

運転中や運転停止直後は、高温部に触れない
投入口扉の内側や排気筒の周囲は高温ですので、やけどの原因になります。

投入口扉の開閉時は指づめに注意する
指づめによるけがの原因になります。

機器の上に乗ったり物を置かない
故障や落下事故・火災の原因になります。

異常音発生時(異物混入など)は、運転を止め、必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)側にする
異常のまま運転を続けると故障や感電・火災の原因になります。
お買い上げの販売店にご相談ください。

運転中は投入口扉のキーを抜く
投入口扉を開けると高温の湯気が出てやけどしたり、事故の原因になります。
いたずら運転防止のためにもキーを抜いてください。

「投入口扉開閉キー」と「電源キー」は必ず抜いて保管する
部外者の誤使用などによる危険のおそれがあります。

⚠注意(CAUTION)

ご使用のとき

長期間ご使用にならないときは、必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)側にする
絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になることがあります。

電源ケーブルは無理に引っ張ったり、ねじったり、重いものを載せない
ケーブルが破損し、火災や感電の原因になります。

設置のとき

石油類やプロパンガスなどの引火しやすいものを本体に近づけない
火災の原因になります。

ご自分で設置や移動・再設置はしない
不備があると感電・火災の原因になります。
お買い上げの販売店、または工事店にご依頼ください。

排気筒の近くに物を置かない
高温の排気と熱で変色や変形、また植物などは枯れることがあります。

本体の近くに消火器を設置する
消火器の設置が義務づけられていますので必ず設置してください。
(屋外設置のときは消火器格納ボックスに収納してください)

お願い

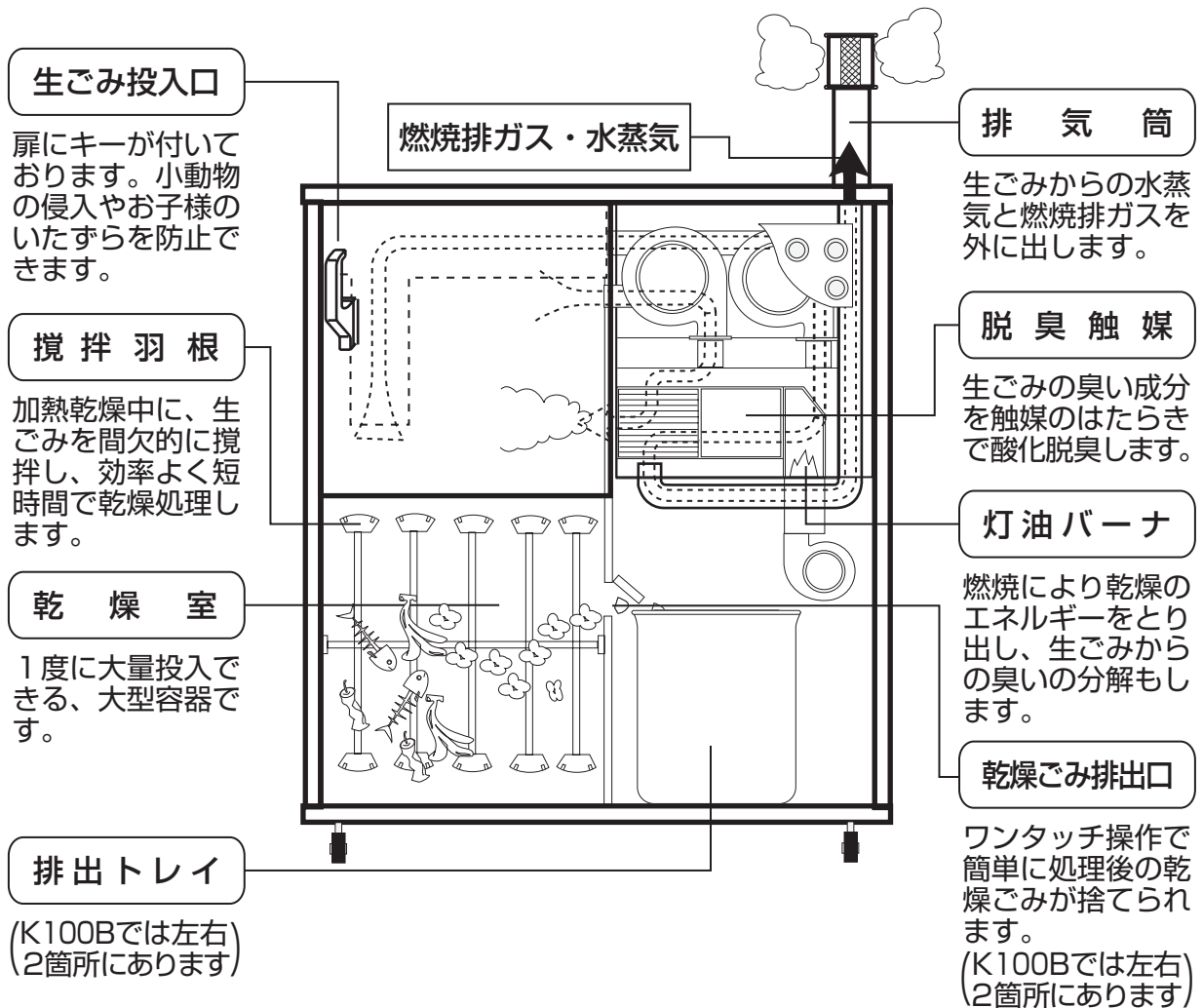
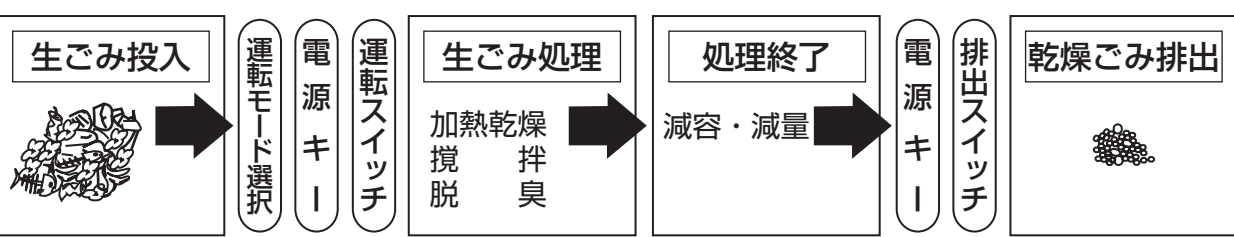
排気筒を延長して設置されたときは、多量の結露水が発生します。結露水はごみの種類により酸性を示すことがありますので、薄めて排水していただくことをおすすめします。

商品概要

●商品の概要

レストラン、食堂、給食などで発生する生ごみを処理する機器です。
他の用途には使用しないでください。
（本来の用途以外の目的に使用されたときに起きた事故・損害については当社は補償できません）

構 造

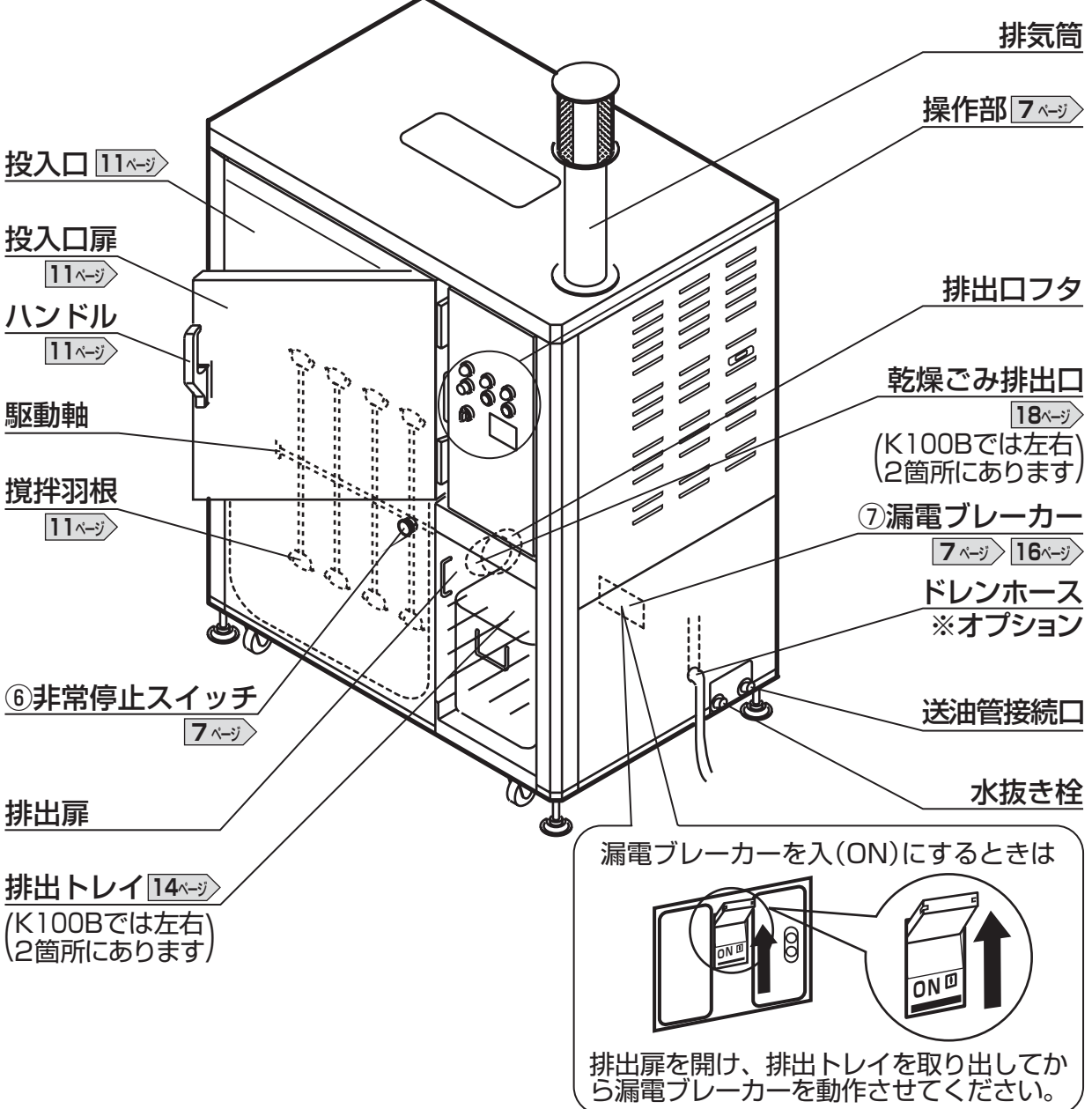
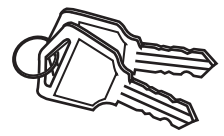
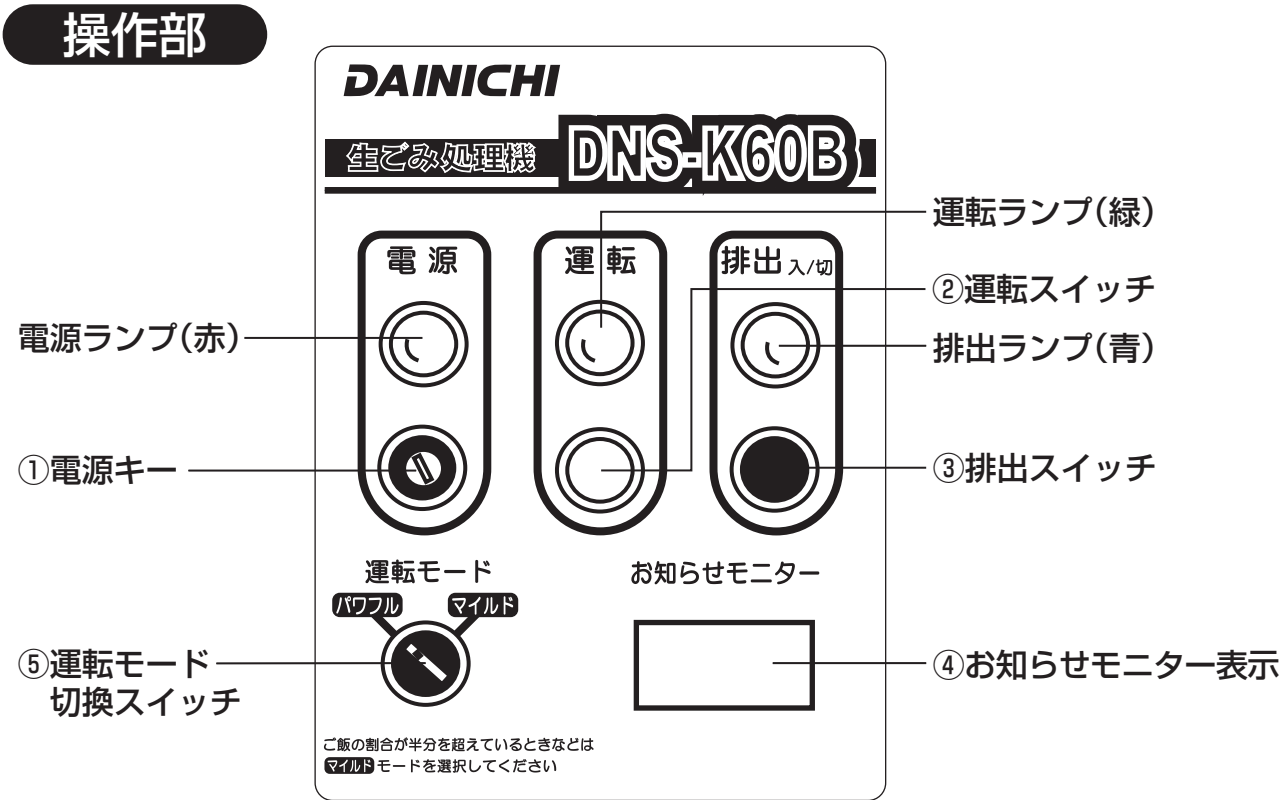
《例. DNS-K60B》

処理工程

各部のなまえ

本体外観

《例. DNS-K60B》

付属品

操作部のなまえとはたらき

操作部

①電源キー	いたずら運転防止のためのスイッチです。 右方向に「入」にし、電源ランプ(赤)が点灯したら手をはなします。 自動的にもとの位置に戻りキーを抜くことができます。 (キーなしでは電源の「入」ができません) ※電源キーを「入」にしても電源ランプ(赤)が点灯しないときは、漏電ブレーカーが「入」(ON)になっているのを確認してください(6ページ の⑦)。
②運転スイッチ	生ごみ処理機の乾燥運転を開始させます。 (運転ランプ(緑)が同時に点灯します) ※処理が終了すると、自動的に運転は停止します。 (運転ランプ(緑)と電源ランプ(赤)が消灯します)
③排出スイッチ	乾燥ごみの排出運転をします。 (排出が終了すると排出ランプ(青)と電源ランプ(赤)が消灯します) ※排出中にもう1度押すと、排出を止め排出口フタを自動的に閉めます。
④お知らせモニター表示	機器の運転状態を表示します。また、異常が発生したときは電源ランプ(赤)の点滅と同時にエラー内容、あるいはエラー番号を表示します。
⑤運転モード切換スイッチ	ご飯の割合が半分を超えているときや、乾燥物がこびりつきやすいときは、「マイルドモード」を選択してください。
⑥非常停止スイッチ 6ページ	異常の際に運転を停止させます。 (スイッチを押すと運転を停止します。排出途中でスイッチを押すと、排出口フタは開いたままになっています。) ※再度、運転をするときの手順は、20ページを参照してください。
⑦漏電ブレーカー 6ページ	本機が漏電のときや落雷があったときに作動します。 長期間ご使用にならないときや異常時には、運転を止めるとともに必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)にしてください。

投入できるもの／投入してはいけないもの

投入できるもの

レストラン、食堂、給食などで発生する生ごみだけです。

ご飯・麺類・茶がら・野菜くず・果物くず・肉類・魚類・その他一般的に人が食べられる食材・調理物

ただし、処理する生ごみが同じ種類にかたよるときは、他の生ごみと一緒に処理してください。

投入してはいけないもの

生ごみ以外は投入しないでください

1 引火・爆発するもの

⚠警告(WARNING)

次のようなものは、絶対投入しないでください。

- ○酒類(果実酒、薬用酒など)
- ○石油類
- ○アルコール分やアルコール分を含む食品(酒かすなど)
- ○アルコール(焼酎、ホワイトリカーなど)漬けをしたあとの果実、薬草など
- ○その他(缶類(スプレー缶など)・電池類・花火)

爆発・引火のおそれがあります。

2 機器の故障になるもの

生ごみでも次のようなものは投入しないでください。

- ○牛、豚などの骨
- ○カキ、サザエ、アワビ、たて貝などの硬い貝殻や多量のアサリ、しじみなど
- ○漬物、味噌汁、塩漬類などの塩分の多い生ごみだけの投入、または多量投入

生ごみ以外の材料

- ○スプーン、フォークなどの金属類
- ○ガラス、皿など陶磁器類
- ○スチロールトレイ、ポリ袋、ラップなどのシート類
- ○割り箸、竹ぐしなどの木竹製品
- ○輪ゴム
- ○乾電池
- ○雑誌や新聞の束　・・・など

使用前の準備

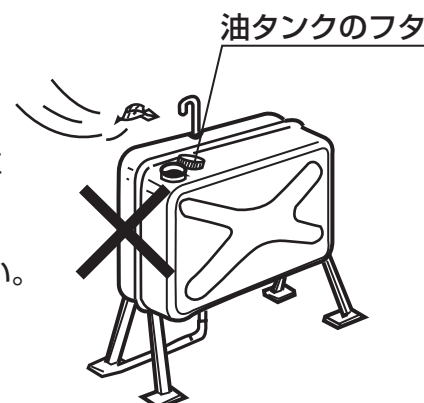
1 燃料

●使用燃料

○燃料は、必ず灯油（JIS１号灯油）を使用してください。
変質灯油・ガソリン・軽油・不純灯油（汚れた灯油・水の混入した灯油など）は絶対に使用しないでください。
異常燃焼や故障の原因になります。

2 給油

●油タンクへの給油

○給油の際に、水やごみなどを入れないよう特に注意してください。
水やごみなどは燃焼不良などの原因になります。
○水抜きに関しては、19ページを参照してください。
○油タンクのフタは、確実に閉めてください。
○こぼれた灯油はよくふき取ってください。

3 運転開始前の準備と確認

●油タンクの送油バルブを開ける

●電源の確認

○電源は三相200Ｖを使用してください。
専用の電源ボックス、またはコンセントに接続してください。
他の動力回路線と結束・接近させないでください。
○電源コードが鋭い角に当たっていないか確認してください。
コードが傷ついて漏電の危険があります。

●送油経路の油漏れの確認

○油タンクや送油管の接合部などから油漏れがないかどうか確認してください。

●漏電ブレーカーのスイッチが「ON」になっているか確認

○初めての運転や油受皿（本体）水抜き後の運転では、漏電ブレーカーのスイッチ「ON」で、自動的に灯油をくみ上げ始めます。
このとき、機内の送油経路・油受皿に灯油が回りきるまで時間がかかりますので、２分以上の時間をおいてから４～５回程度、漏電ブレーカーのスイッチを入れ直してください。

●非常停止スイッチが解除されているか確認

上手にお使いいただくために

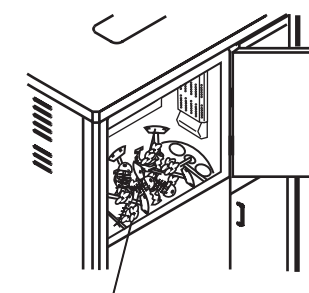
生ごみを入れるとき

●お使いになる前に「日常のお手入れ」を行なってください。17ページ

●「撹拌羽根」が見えなくなるまで生ごみを入れないでください。

○規定された標準試験生ごみによる最大処理量は、DNS-K60Bで60kg、DNS-K100Bで100kgですが、生ごみの種類により比重は大きく異なるため体積としてはさまざまです。生ごみ投入量の目安としては、「撹拌羽根」が完全に見える高さにしてください。

目安以上に投入したときは、乾燥時間が長くなったり、未乾燥になることがあります。また、駆動部等への負担がかかり、故障の原因になります。

※極端に少量の生ごみのときは、未乾燥になることがあります。

「撹拌羽根」が完全に見える高さ

●処理する生ごみがでんぷん類や果物等、特定の種類にかたよるときや、油分の多いときは、他の生ごみと一緒に処理してください。

○麺類、ご飯、もち、果物などのでんぷん類や糖分が多いときは、かたまりになることがあります。
○多量の魚や天ぷら油など過度に油分が多いときは、油分は乾燥せず、べたついた状態で残ります。

●水分の多い生ごみ類（スープ、野菜など）を処理するときは、他の生ごみと一緒に処理してください。

●乾燥室内でごみが腐敗しないように、早めに処理してください。

○生ごみを投入したまま放置された後に運転すると、腐敗が進んで悪臭がするときがあります。早めに処理してください。
○悪臭がすることがありますので、腐敗したごみや刺激臭の強いごみ、排泄物等は投入しないでください。

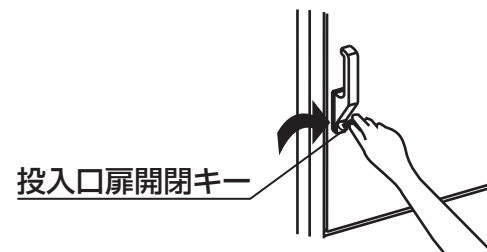
処理後

乾燥ごみは毎回取り出してください。

○駆動部等への負担がかかり、故障の原因になります。
○乾燥ごみの量が多いときは、排出トレイからあふれることがあります。２回以上に分けて排出してください。

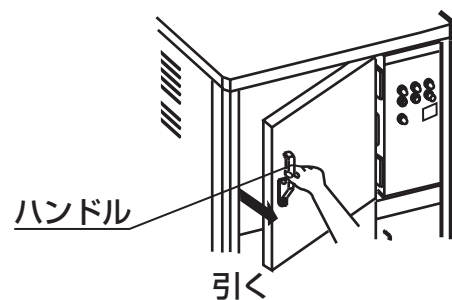
運転のしかた

1 投入口扉を開ける

①投入口扉にキーを差し込み、右に回して鍵を開ける。

お願い

寒冷地や冬期など、投入口扉開閉キーの穴に水が入り凍結することがありますので、凍結したときは、あたためて溶かしてください。

キー操作は、力を入れずに軽く回してください。

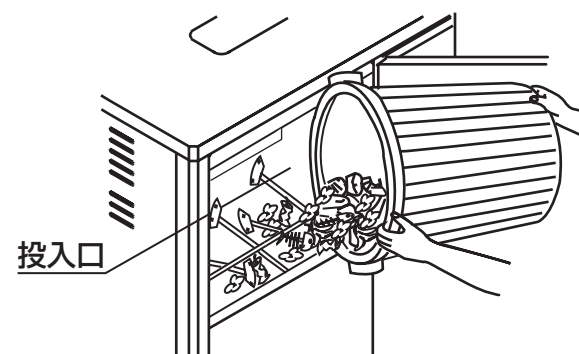
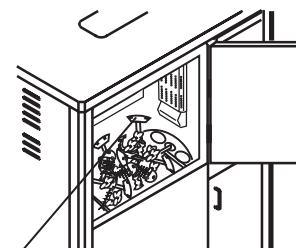
②ハンドルを手前に引いて投入口扉を開ける。

2 生ごみを投入する

①生ごみの水切りをする。
（乾燥時間が短くなります）

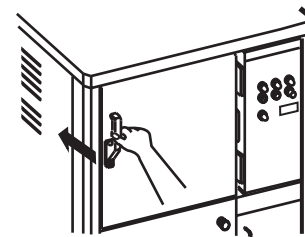
お願い

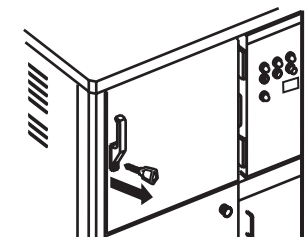
ポリ袋は入れないでください。
（駆動軸にからみついたり、排出口につまって故障の原因になります）

②生ごみを投入する。

お願い

投入量は、「撹拌羽根」が完全に見える高さまでとしてください。
（乾燥時間が長くなったり、未乾燥になることがあります。
また、駆動部等への負担がかかり、故障の原因になります。）

「撹拌羽根」が完全に見える高さ

3 投入口扉を閉める

①投入口扉を確実に閉める。

※扉が確実に閉まっていないと運転できません。
※投入口にごみが付着して、完全に閉まらないときはブラシなどで取り除いてください。

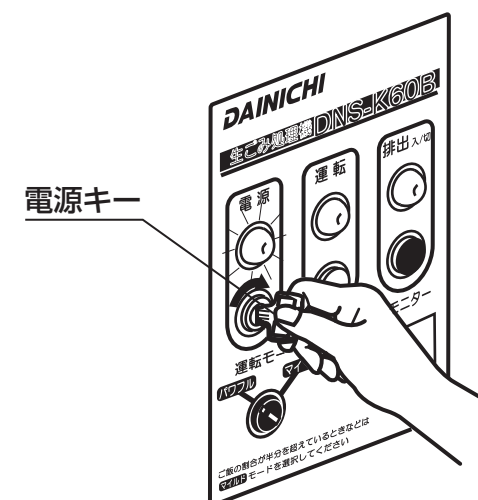
②投入口扉開閉キーを左に回して必ず抜き取って保管してください。

お願い

抜いた投入口扉開閉キーは紛失しないように確実に保管してください。

4 運転モード選択

通常はパワフルモード、ご飯の割合が半分を超えるときや、乾燥物がこびりつきやすいときは、マイルドモードを選択してください。

5 電源キーを「入」にする

①電源キーを差し込み、右方向に「入」にすると電源ランプ（赤）が点灯します。
（「入」にしても電源ランプ（赤）が点灯しないときは、漏電ブレーカーが「入」（ON）になっているか確認してください。）

お願い

寒冷地や冬期など、電源キー穴に水が入り凍結することがありますので、凍結したときは、あたためて溶かしてください。

※電源キーは手をはなすと自動的に元に戻ります。

キー操作は、力を入れずに軽く回してください。

②電源キーを必ず抜いて保管してください。
（いたずら運転防止のため）

お願い

抜いた電源キーは紛失しないように確実に保管してください。

運転のしかた（漏電ブレーカーの動作チェック）

6 運転スイッチを押す

①運転ランプ（緑）が点灯、お知らせモニターは「運転中」を表示し、撹拌・乾燥を開始します。

※運転途中で投入口扉を開けたときは、電源ランプ（赤）が点滅、「お知らせモニター」が点灯し、電源が切れますので投入口扉を閉じてから、再度、電源キーを入れ、「運転スイッチ」を押してください。

7 処理終了

①処理が終了しますと自動的に「切」になり、運転ランプ（緑）・電源ランプ（赤）・お知らせモニターが消灯します。

処理時間の目安

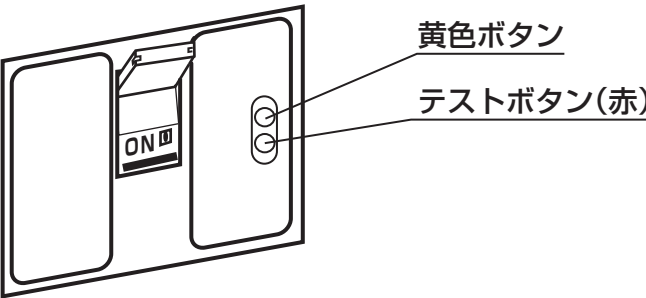
・DNS-K60B　標準処理時間 ：９時間／回
・DNS-K100B　標準処理時間 ：12時間／回

○投入される生ごみに含まれる水分量によっては、処理時間が長くかかるときがあります。
○運転時間が最長約20時間で止まるように設定されています。

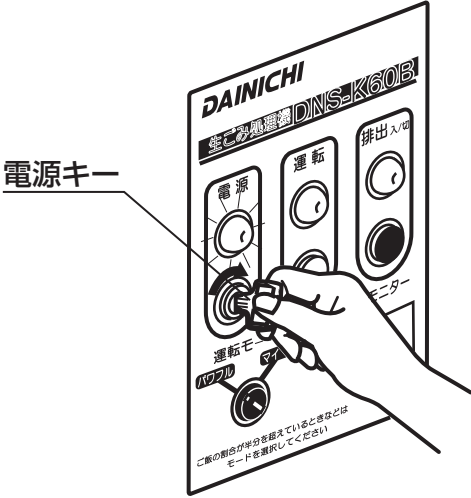
漏電ブレーカーの動作チェック

●定期的に行なってください（月１回程度）

<漏電ブレーカーの動作チェック方法>

①漏電ブレーカーの「入」（ON）の状態で、テストボタン（赤）を押す。
　※自動的に「切」（OFF）になればOKです。
②黄色ボタンを押してから、「切」（OFF）側に強く押し下げる。
③漏電ブレーカーを「入」（ON）にする。

乾燥ごみの排出のしかた

1 電源キーを「入」にする

①電源キーを差し込み、右方向に「入」にすると電源ランプ（赤）が点灯します。

※電源キーは手をはなすと自動的に元に戻ります。

キー操作は、力を入れずに軽く回してください。

②電源キーを必ず抜いて保管してください。
（いたずら運転防止のため）

お願い

抜いた電源キーは紛失しないように確実に保管してください。

③排出トレイがセットされていることを確認する。

※排出トレイには、専用のフタが付属されています。このフタが外されていることも確認してください。
※排出トレイにビニール袋をかぶせておくと、乾燥ごみがこの中にたまります。ビニール袋の口をしばるとそのまま保管ができます。
※DNS-K100Bは、排出トレイが左右２箇所にあります。

乾燥ごみの排出のしかた

2 排出スイッチを押す

①排出ランプ（青）が点灯、お知らせモニターは「排出中」を表示し、乾燥ごみが排出されます。

※乾燥ごみの量が多いと、排出トレイからあふれることがあります。量が多いときは、２回以上に分けて排出してください。
※１回の排出動作は約15分です。
排出しきれなかったときは、再度、排出運転を実施してください。
※DNS-K100Bは、排出トレイが左右２箇所にあります。

②約15分間排出したら自動終了し、排出口フタが閉じ、排出ランプ（青）・電源ランプ（赤）・お知らせモニターが消灯します。

○ 排出途中で止めるとき
止めたいときにもう１度「排出スイッチ」を押してください。
（排出ランプ（青）・電源ランプ（赤）・お知らせモニターが消えます 7ページ）

○ 排出途中で投入口扉を開けたとき
電源ランプ（赤）が点滅、「お知らせモニター表示」が点灯し、電源が切れますので投入口扉を閉め、再度、電源キーを入れ「排出スイッチ」を押してください。

○ 排出口フタが閉まらないとき
電源ランプ（赤）が点滅し、「お知らせモニター表示」が点灯し、電源が切れます。
（乾燥ごみ排出口に異物などがかみ込んでいないか確認してください 18ページ）
（DNS-K100Bは、左右両方の乾燥ごみ排出口を確認してください）

⚠ 警告（WARNING）

乾燥室内部は、撹拌羽根が回っており、大変危険です。
乾燥ごみ排出口から乾燥室に何か物を入れたり手などを入れたりしないでください。

3 ごみを捨てる

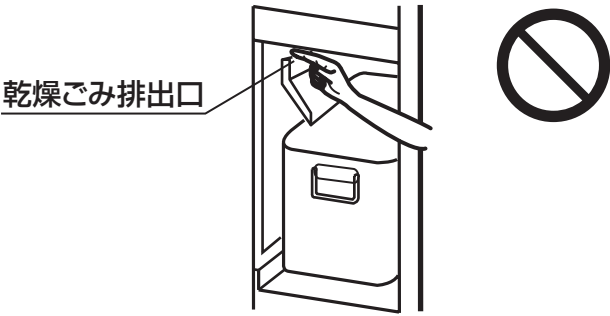
①乾燥ごみは、一般可燃ごみと一緒に捨てられます。

乾燥ごみは有機肥料素材としても再利用できます

⚠ 注意（CAUTION）

長時間ご使用にならないときや異常時は、運転を止めて必ず漏電ブレーカーを「切」（OFF）にする。
感電・漏電火災の原因になることがあります。

<漏電ブレーカーを「切」（OFF）にする>

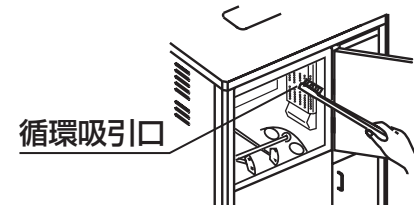
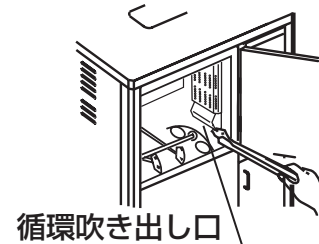
乾燥ごみの排出のしかた
使用方法

手入れのしかた

⚠警告(WARNING)	⚠注意(CAUTION)
お手入れの際は、運転を止めて必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)側にする。 感電・けがをするおそれがあります。	運転停止直後のお手入れは、本体が熱くなっていますので避けてください。 排気筒や内部が高温になっていますのでやけどの原因になります。

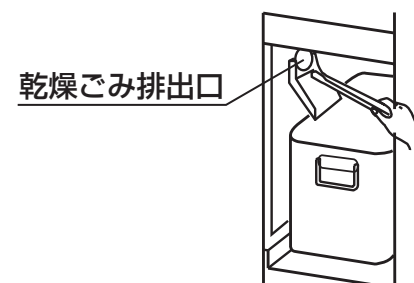
お守りください

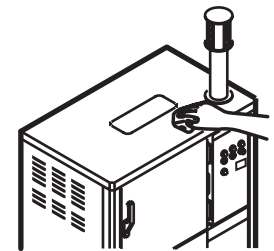
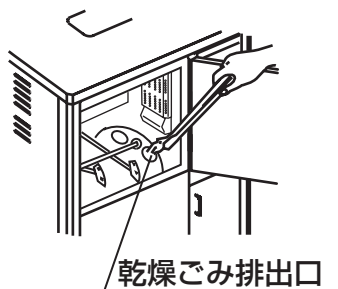
お使いになる前やあとには、お手入れを行なってください。
- ○乾燥室内部の循環吸引口、吹き出し口にごみが付着したまま使用を続けると、故障の原因になります。
- ○乾燥ごみ排出口にごみが付着、堆積しているときは、排出口フタが閉まりきらないことがあります(お知らせモニター表示)。

日常のお手入れ

●循環吸引口フィルター
○フィルターが汚れたり、ごみが付着しているときは、ブラシなどで清掃してください。

●循環吹き出し口
○吹き出し口にごみが付着していたり、塞ぐような異物があったときは、取り除いてください。

●投入口扉のパッキン、投入口周辺
○汚れていたり、ごみが付着しているときは、掃除してください。
(臭いがもれたり、脱臭効果が少なくなったりします)

●乾燥ごみ排出口、シューター
○乾燥ごみなどが堆積しているときは、金属へらなどで取り除いてください。

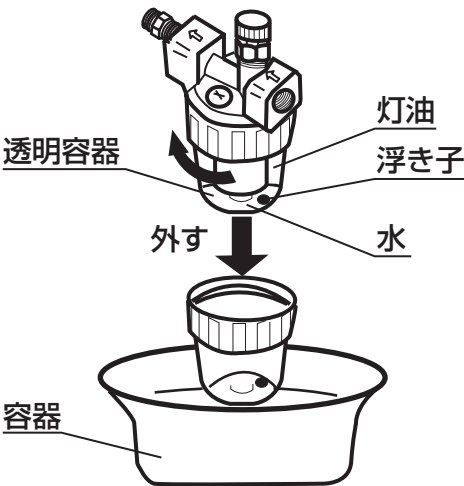
①**電源キー**を入れ、**排出スイッチ**を押す。
　※排出口フタが開き始める
②排出口フタがほぼ全開まできたら、漏電ブレーカーを「**切**」(OFF)にする。
③掃除・除去
④漏電ブレーカーを「**入**」(ON)にする。
⑤**電源キー**を入れ、**排出スイッチ**を押す。
　※排出口フタが閉まります。
⑥ランプ表示が消え、復帰動作終了。
　(通常の運転が可能です)

異物が入ったり汚れがひどいときのお手入れ

●本体の外まわり
○手アカや水アカなどの汚れは、スポンジや濡らしてかたく絞ったふきんなどでふいてください。
濡らしたふきんに少量の中性洗剤をつけて汚れ部分をふき、その後、乾いた布でふくとよりきれいになります。

●本体内部・乾燥ごみ排出口
○本体内部にポリ袋がからんだり、金属などの異物があるときは、金ばさみなどで取り除いてください。
○乾燥ごみ排出口に異物がかみ込んだときは、**電源ランプ(赤)**が点滅し、「**お知らせモニター表示**」が点灯します。異物を取り除いたあと、次の手順で、再度運転してください(DNS-K100Bは、左右両方の乾燥ごみ排出口を確認してください)。

> 排出口フタが開いたまま電源が切れます。
> もう１度**電源キー**を入れ「**排出スイッチ**」を押すことで、排出口フタが閉じます。
> 継続して排出したいときは、再度、**電源キー**を入れ「**排出スイッチ**」を押してください。

手入れのしかた

油フィルター内の水抜き

油フィルターを点検し、水やごみなどがたまっていたら抜いてください。

①水がたまると赤い浮き子が浮き上がります。
②油タンクのバルブを閉めてください。
③配管内の灯油が流出しますので大きめの容器を用意し、油フィルター下に置いてください。
④透明容器をはずして、水・ごみを取り除いてください。
⑤透明容器をしっかり取り付けてください。
⑥油タンクのバルブを開けてください。

油受皿(本体)の水抜き

①本体右側面の水抜き栓を外す。
※漏電ブレーカーを「切」(OFF)にしてから行なってください。

灯油と水が排出されます。

②すべて抜き終わったら、市販のシールテープを巻き水抜き栓を閉め込む。

③使用を再開するときは、「使用前の準備」に従ってください。9ページ

長期間使用しないとき

①機器内のごみをすべて排出する。
②漏電ブレーカーを「切」(OFF)にする。
③油タンクのバルブを閉める。
④油受皿の灯油をすべて抜く「油受皿(本体)の水抜き」に従って抜く)。
⑤使用を再開するときは、「使用前の準備」に従ってください。9ページ

異常が発生したとき

●異常音や駆動軸がロックしたときは

生ごみ以外の異物を投入したため、異常音がしたときや、危険を感じたときは下記の非常停止スイッチを押してください。

⚠注意(CAUTION)

異常音発生時(異物混入など)は、運転を止めて必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)にする。
異常のまま運転を続けると、故障・感電・火災の原因になります。
お買い上げの販売店にご相談ください。

停止するときは

①非常停止スイッチを強く押す。
②漏電ブレーカーを「切」(OFF)にする。16ページ

非常停止

非常停止スイッチ

異物などを取り除き、安全を確認する。

再運転するときは

①漏電ブレーカー「入」(ON)にする。6ページ
②非常停止スイッチを矢印方向に回し、手を離して解除する。
③電源キーを右方向に「入」にする。12ページ
④運転スイッチを押す。
(排出口の排出口フタが開いていたときは、自動的に閉じます)

排出途中での非常停止又は停電

排出途中で非常停止スイッチを押したときや排出途中で停電したときは、排出口フタが開いたままになっていますので、上記の「再運転するときは」の手順①〜③に従い、④で排出スイッチを押して排出口フタを閉じてください。その後、通常の運転が可能です。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

●異常の原因と処置のしかた

機器に異常が発生したときは、電源ランプ(赤)が点滅し、お知らせモニター表示にエラー内容、あるいはエラー番号が表示されます。また、電源ランプ(赤)が点滅しなくても異常な症状が現れたときは、以下の表に従い、適切な処置を行なってください。

＜電源ランプ(赤)が点滅しているとき＞

お知らせモニター表示内容	原　因	処　置　方　法
投入口扉を閉めてください	運転中に投入口扉が開いた	投入口扉を閉め、「運転のしかた」に従って再運転してください。 11ページ
水混入　説明書をお読みください	油受皿の中に水が混入した	「油受皿の水抜き」に従い水を抜き、「運転のしかた」に従って再運転してください。 11ページ 19ページ
灯油切れ　給油してください	灯油タンクの油がなくなった	灯油タンクに給油し、「運転のしかた」に従って再運転してください。 9ページ 11ページ
排出口を掃除してください	排出口フタが閉まらない	排出口フタに付着したごみを取り除き、「異物が入ったり汚れがひどいときのお手入れ」に従って、再運転してください。 18ページ
内部フィルターを掃除してください	循環吸引口フィルター、吹き出し口にごみが付着	「日常のお手入れ」に従って循環吸引口、吹き出し口に付着したごみを取り除き、「運転のしかた」に従って再運転してください。 11ページ
エラー1 再運転してください	着火ミス	電源電圧が正常であることを確認し、「運転のしかた」に従って再運転してください。 11ページ
エラー2 再運転してください	途中消火	電源電圧が正常であることを確認し、「運転のしかた」に従って再運転してください。 11ページ
エラー10〜50	エラー番号に対応する原因	エラー番号を控え、漏電ブレーカーを「切」(OFF)にし、お買い上げの販売店にご相談ください。 6ページ 16ページ

⚠警告(WARNING)

点検の際は、必ず漏電ブレーカーを「切」(OFF)側にする。
感電・けがをするおそれがあります。

＜運転ランプ(緑)は点滅しないが、異常な症状が現れたとき＞

症　状	原　因	処　置　方　法
運転中に何も表示せず、機器が停止している	一時停止した。(停電安全消火装置が作動)	停電が復旧したことを確認し、「運転のしかた」に従って再運転してください。 11ページ 排出途中で停電したときは、「排出途中での非常停止又は停電」に従って再運転させてください。 20ページ
電源キーを「入」にしても電源ランプ(赤)が点灯しない	漏電ブレーカーが「切」(OFF)になっていませんか。	漏電ブレーカーを「入」(ON)にしてください。
	非常停止スイッチが押し込まれたままになっていませんか。	非常停止スイッチを矢印方向に回し解除してください。
乾燥時間が長くかかる	水分の多い生ごみ類(スープ・野菜など)を多く入れていませんか。	水気を切るか、量を少なくしてください。
	循環吸引口が目づまりしていませんか。	清掃してください。
	「撹拌羽根」が見えなくなるまで生ごみを入れていませんか。	生ごみの投入は、「撹拌羽根」が完全に見える高さまでにしてください。
完全に乾燥されていない(未乾燥)	油分の多い生ごみ類を多く入れていませんか。(油分は乾燥しません)	油分の少ない他の生ごみと一緒に入れ、再処理してください。
	停電がありませんでしたか。(エラー表示はありません)	再度、運転してください。
	水分の多い生ごみ類(スープ・野菜など)を多く入れていませんか。	他の生ごみと一緒に入れ、再処理してください。
	生ごみを多く入れていませんか。(多いと、撹拌羽根が回らなくなります)	生ごみの投入は、「撹拌羽根」が完全に見える高さまでにしてください。
異常音がする	投入してはいけないものを入れていませんか。 8ページ	異物を取り除いてください。

お守りください

○処理を行なっても直らないときや、上記以外のエラー表示がでたときは故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
○故障したまま使用を続けると、予想しない事故が発生するおそれがあります。

保証とアフターサービス

●アフターサービスの依頼

点検・修理が必要になったときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

●保証について

保証書(裏表紙に付いています) 裏表紙

○保証書は、必ず「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
○内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間

○**保証期間はお買い上げ日から１年間**です。修理の際は、保証書をご提示ください。裏表紙
なお、消耗部品(気化器、パッキンなど)のお取り替えは、保証期間中でも有料となることがありますので、保証書をよくお読みください。

保証期間が過ぎているとき

○修理すれば使用できるときには、ご希望により有料修理させていただきますので販売店にご相談ください。

●補修用性能部品について

○補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
○本生ごみ処理機の補修用性能部品は、製造打切り後９年保有しています。

愛情点検　長年ご使用の石油乾燥式生ごみ処理機の点検を！

こんな症状はありませんか	・電源キーを入れても、ときどき運転しないことがある ・運転中に異常な音がしたり、振動がある。 ・その他の異常や故障がある。

ご使用中止	事故防止のため、漏電ブレーカーを「切」(OFF)にし、お買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。

別売部品

○ご使用頻度により異なりますが、消耗部品は定期的に交換(有料)が必要になります。

＜消耗部品＞	＜交換目安時間＞
気化器	約6,000時間
投入口扉パッキン	約6,000時間
メンテナンス用パッキン	メンテナンス毎

○交換については、お買い上げの販売店にご相談ください。

定期保守整備契約について

●定期保守整備契約

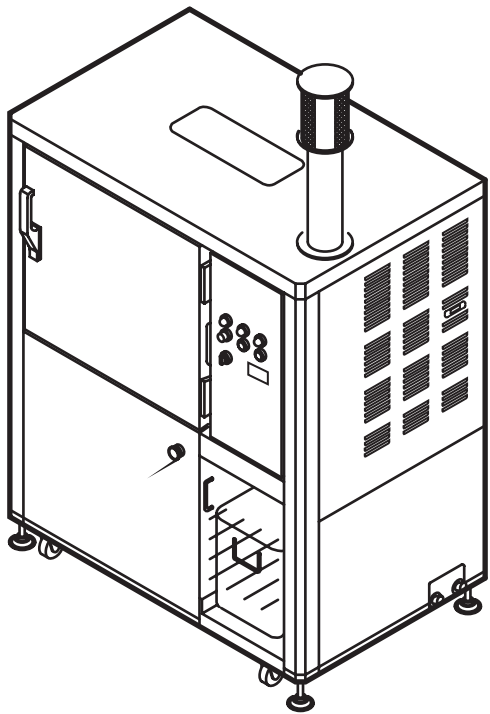
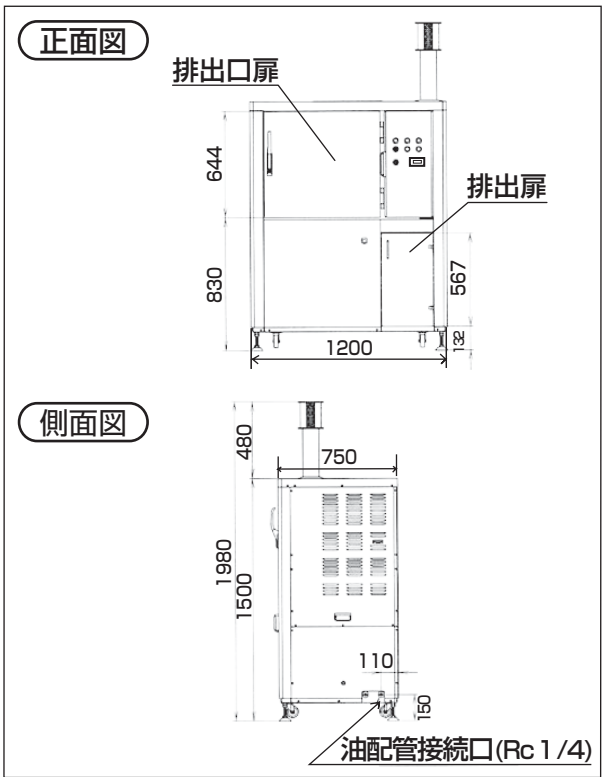
このたびはダイニチ石油乾燥式生ごみ処理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

○本機は、灯油バーナで加熱乾燥処理する方式の生ごみ処理機です。本機の構成の中でバーナの気化器、生ごみを撹拌する機構部品、いやな臭いを脱臭する触媒部等は、使用される生ごみの種類・量・稼働時間によって消耗・劣化します。
このためトラブルを未然に防止し、末永く安心してご使用していただくためにお客様の正しいご使用と、定期的な点検整備が必要です。
○保守点検には、専門の技術が必要となります。そこでお客様にかわって定期的な点検と整備をお引受けし、年１回の定期保守点検と6,000時間毎の点検・消耗部品の交換をする「定期保守整備契約」が必須となります。
据付工事完了のご確認とともに定期保守点検の申し込みをお願いいたします。

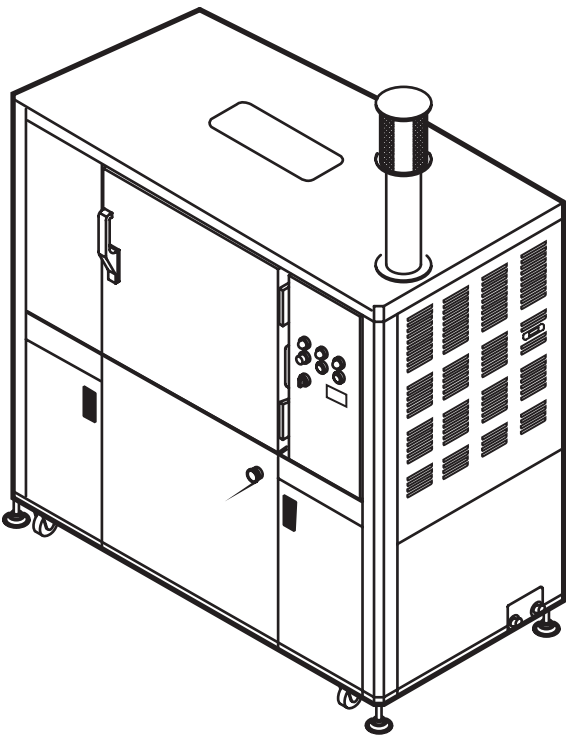
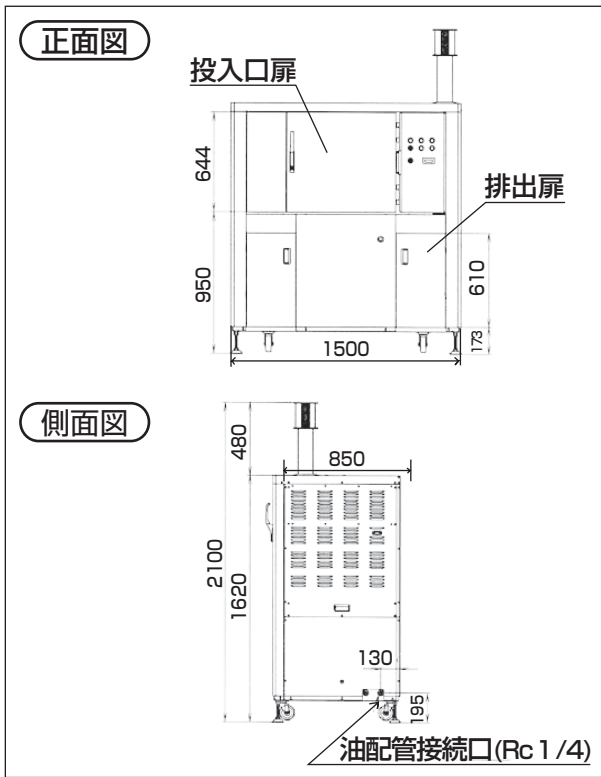
ご契約タイプ	保守範囲			
	点検整備	修理工料	構成部品代	消耗部品代
定期保守整備契約 Ａ型	年１回	○	○	○
定期保守整備契約 Ｂ型※	年１回	○	—	—

※Ｂ型は構成部品部品代・消耗部品代は含まれておりません。発生の都度、有償となります。

仕様

DNS-K60B　60 Kg／回

●外形図(mm)

型　　　　　式	DNS-K60B
処　理　方　式	乾燥式
定　格　電　圧	三相200 V
定　格　周　波　数	50/60 Hz
定　格　電　力	2.7 kW
定　格　燃　焼　量	6.0 kW（JIS 1 号灯油）
標　準　処　理　量	60 kg/回（80 L/回）【最大120 kg/日】
標 準 処 理 時 間	9 時間/回 （標準乾燥時間 8.5 時間/回）
減　質　量　率	80 %
消　費　灯　油　量	5.2 L/回
消　費　電　力　量	14.0 kWh/回
騒　　　　　音	【正面】45 dB/【右側面】48 dB
本　体　寸　法 （高 さ × 幅 × 奥 行）	1,500 mm×1,200 mm×750 mm （排気筒含む高さ1,980 mm）
本　体　質　量	330 kg
機 器 主 要 材 質	内外装　SUS304
安全対策・保護装置	燃焼制御装置、停電安全装置、過熱防止装置、温度ヒューズ 転倒自動消火装置、漏電遮断器、投入口扉スイッチ 非常停止スイッチ、投入扉キー、電源キー
給 水・排 水 設 備	不要

◆本品設置等には20 A以上の電源（単独配線）をご準備ください。
◆長時間ご使用にならないときは、漏電ブレーカーを必ず「切」にしてください。
○ 仕様記載内容は、標準試験生ごみを使用。定格周波数50Hzで運転。測定・評価したものです。
○ 処理途中での追加はできません。

DNS-K100B　100 Kg／回

●外形図(mm)

型　　　　　式	DNS-K100B
処　理　方　式	乾燥式
定　格　電　圧	三相200 V
定　格　周　波　数	50/60 Hz
定　格　電　力	4.0 kW
定　格　燃　焼　量	6.0 kW（JIS 1 号灯油）
標　準　処　理　量	100 kg/回（130 L/回）【最大200 kg/日】
標 準 処 理 時 間	12 時間/回 （標準乾燥時間 11.5 時間/回）
減　質　量　率	80 %
消　費　灯　油　量	7.0 L/回
消　費　電　力　量	26.5 kWh/回
騒　　　　　音	【正面】45 dB/【右側面】48 dB
本　体　寸　法 （高 さ × 幅 × 奥 行）	1,620 mm×1,500 mm×850 mm （排気筒含む高さ2,100 mm）
本　体　質　量	350 kg
機 器 主 要 材 質	内外装　SUS304
安全対策・保護装置	燃焼制御装置、停電安全装置、過熱防止装置、温度ヒューズ 転倒自動消火装置、漏電遮断器、投入口扉スイッチ 非常停止スイッチ、投入扉キー、電源キー
給 水・排 水 設 備	不要

◆本品設置等には30 A以上の電源（単独配線）をご準備ください。
◆長時間ご使用にならないときは、漏電ブレーカーを必ず「切」にしてください。
○ 仕様記載内容は、標準試験生ごみを使用。定格周波数50Hzで運転。測定・評価したものです。
○ 処理途中での追加はできません。

問い合わせ先

ご相談窓口（使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談、別売部品の購入など）

お客様ご相談窓口(通話料無料)
TEL 0120-468-110
FAX 0120-468-220

＜受付時間＞
11月～ 1月 9：00～19：00
（土は～17：00、日・祝日・年末年始は休み）
2月～10月 9：00～12：00、13：00～17：00
（土・日・祝日は休み）

インターネットからのお問い合わせ
＜24時間受付＞

「お客様サポート/お問い合わせ」
http://www.dainichi-net.co.jp/support/

※型式(操作部に表示)をご確認のうえ、ご連絡ください。

ダイニチ工業株式会社におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

1. ダイニチ工業株式会社(以下「弊社」)は、お客様の個人情報をお客様からのご相談への対応や修理及びその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
2. 次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
   ①修理やその確認業務を委託する場合
   ②法令の定める規定に基づく場合
3. 個人情報に関するご相談は、お問い合わせいただきました窓口にご相談ください。

〒950-1295 新潟市南区北田中 780-6
ホームページ http://www.dainichi-net.co.jp/

メモ

ダイニチ石油乾燥式生ごみ処理機保証書

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げの日から下記期間中故障が発生したときは、お買い上げの販売店に修理をご依頼のうえ、本書をご提示ください。

型名	ご購入機種に○を付けてください		製造番号	
	DNS-K60B	DNS-K100B		
お客様	お名前　　　　　　　　　　様 ご住所　〒 電話番号　（　　　）　　－			
お買い上げ日		販売店名・住所・電話番号		
年　月　日				
保証期間（お買い上げ日から）				
本体１年間				

お客様へお願い
お手数ですが、お名前・ご住所・電話番号をわかりやすくご記入ください。
販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

ご販売店様へ
お買い上げ日・製造番号・貴店名・住所・電話番号を必ず記入し（記入のないときは無効になります）、本書をお客様へお渡しください。

＜無料修理規定＞

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障したときは、無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受けるときは、お買い上げの販売店に出張修理をご依頼の上、本書をご提示ください。なお、離島、および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行なったときは、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居のときは、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
4. 譲渡品などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼できないときは、弊社へご相談ください。
5. 保証期間内でも次のときは、有料修理になります。
   （イ）使用上の誤り、不当な修理・改造による故障や損傷
   （ロ）お買い上げ後の移動・落下、輸送などによる本体の故障や損傷
   （ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、および公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）などによる故障や損傷
   （ニ）異常電圧、指定外の電源（電圧・周波数）、水、ガソリンなどによる故障や損傷
   （ホ）灯油（JIS１号灯油）以外の油や水が混入した不純灯油、変質灯油、ガソリンなどの異種油の使用による故障や損傷
   （ヘ）消耗部品（気化器、パッキンなど）の取り替え
   （ト）定期点検の費用
   （チ）車両・船舶への搭載に使用されたときの故障や損傷
   （リ）本書の提示がないとき
   （ヌ）本書にお買い上げ日・お客様名・販売店名の記入がないとき、あるいは字句を書き替えられたとき
   （ル）部品の紛失（投入扉開閉キー、電源キーなど）
6. 本書は日本国内においてのみ有効です（Effective only in Japan.）。
7. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明のときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書（23ページ）をご覧ください。

ダイニチ工業株式会社
〒950-1295 新潟市南区北田中 780-6
お客様ご相談窓口TEL 0120-468-110
ホームページ http://www.dainichi-net.co.jp/